

2018 草木染塾 6 月講座

開催日 [2018 年 6 月 18 日(月曜日)]

開催場所 [川崎市黒川青少年野外センター]

一文紹介 [ヤブマオ による紅梅色染めと板締め絞りの模様出し]

公開記事

今回は、「ヤブマオ による紅梅色染め」と「板締め絞りの模様出し」をテーマに実施をした。

1. ヤブマオ による紅梅色染め

花が咲き始める初夏のこの時期に紅梅色に染められるヤブマオを素材に、最適な色出しを求めて、水抽出・灰汁抽出・酢酸抽出の 3 パターンで染液の抽出を行い、各々無媒染・ミョウバン媒染を試みました。

(結果)

- ・水抽出の 2 番液・3 番液は赤味の強い染液となり、無媒染でいい色に染まった。(しばらく染液に浸けておいた方がよく染まる)
- ・灰汁抽出の 3 番液についても綺麗な赤が出、無媒染でいい色に染まった。
- ・ミョウバン媒染では、赤味が弱くなった。
- ・酢酸抽出では、予想に反し、赤味が出なかった。(赤はアントシアニンの成分ではないと思われる)
- ・水抽出のみ鉄媒染も試したが、紫がかかったグレーとなり、模様出しの際に良いコントラストになりそうである。
- ・シルクはよく染まるが、木綿は濃染処理をしないと染まりにくい。

(課題)

- ・今回の結果では、水抽出が最もよく赤味が出たが、退色については検証できていない。(灰汁抽出の方が色が保てる可能性がある)
- ・今回初夏のヤブマオを使用したけど、秋の素材がいいという情報もあるため、改めて検証が必要。

ひとつの素材に絞って、幾つものパターンを試みたことで、抽出の仕方や媒染の仕方による影響を比較検証することができました。

一見すると紅色とは程遠く思えるヤブマオから、貴重な赤を抽出できることにも、意外性と面白さを感じました。

2. 板締め絞りの模様出し

板締め絞りは、板を外した際に想像もしていなかったような模様が浮かび上がる。というのも魅力の一つですが、

今回は、1 枚の布に対して板締めと染めを 2 回行うことによって、どのような模様となるか予想をし、結果を記録に残すことを目的としました。

(実施結果を受けての教訓)

- ・布は乾いた状態で染液に浸けた方がよい（2回目は濡れているため、若干染まりにくい）
- ・布の折りが多いと、内側への染み込みが悪く、模様が鮮明に出にくい（内側の模様がぼやける）。
→布の大きさは、手ぬぐいの半分程度にして折る回数を減らす方が、鮮明な模様出しをしやすい（屏風だたみ3～4回、または放射状にたたむなど）
- ・模様の見本を教室の参加者に提示する際は、実際の布見本（アイロンをかけた綺麗な状態のもの）を見せると、実感とやる気が出るので望ましい。

各々が頭を絞り、模様染めの多くのパターン見本を作ることができました。

また、実践的な場面を想定した課題出しもすることができ、大変有意義なものになりました。

参加者 前田、瀧浪、松田、桜井、小川

講師 奥村、中野、矢吹(アシスタント)

報告者 松田貴子 (25年)



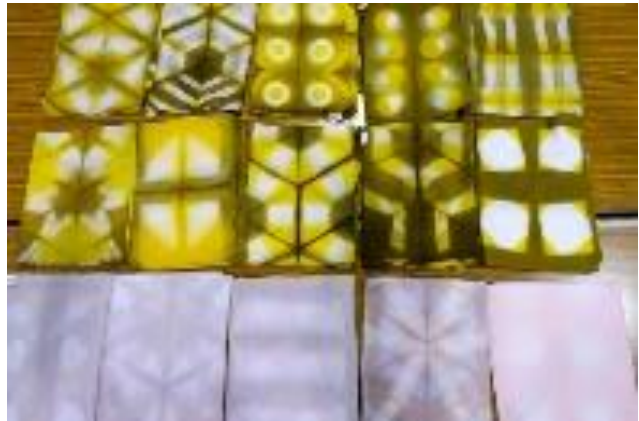
ヤブマオの抽出染液



ヤブマオで染めたシルクとレーヨンのストール



板締めめの1例



様々な板締めによる模様出し